

## 普及活動情勢報告（平成30年9月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

### 新品種の栽培管理を学ぼう！ ～JAカラーピーマン部会現地検討会～



熱心に情報収集する生産者

8月29日、JA土佐れいほくカラーピーマン部会は大豊町、本山町、土佐町のほ場で現地検討会を開催し、部会員9人が参加しました。今年度から栽培している新品種について、種苗会社から特性と管理方法を学ぶとともに、7月中旬頃から50g以下の果実が増加しており、その改善策として整枝や施肥方法を中心に話し合いました。

普及所は新品種と慣行品種の違いについて、生育や収量の調査結果を紹介しました。

生産者からは整枝方法について質問が出され、活発な意見交換の場となりました。

今後、普及所はJAと連携しながら新品種の特性を生かし、増収につなげていきます。

### 新たな農業担い手の確保 ～新・農業人フェアでの就農相談～



就農について相談

9月1日、池袋サンシャインシティで新・農業人フェアが開催され、大豊町、土佐町が相談ブースを出展し、町役場、JA土佐れいほく、普及所の4名で就農相談を実施しました。

当日は、各ブース合わせて12組、14名が訪れました。

大豊町はミニトマトと碁石茶、土佐町は米ナス、花き類、畜産の産地提案書を紹介し、普及所は県の研修事業について説明しました。

相談者は具体的な就農計画のない方がほとんどでしたが、土佐町の相談ブースでは畜産での相談者が多い傾向でした。

2町は今後開催される東京、大阪の相談会にも参加する予定です。

普及所は嶺北地域への担い手を確保するため、継続して支援していきます。

### 秋のイベント参加に向けて ～伊勢川集落営農推進委員会～



大国鍋出店に向け  
役員で話し合い

9月14日、土佐町伊勢川集会所で伊勢川営農組合の集落営農推進委員会が開催され、組合員8人が参加しました。

防除作業の受託状況、ウメやチョロギの栽培状況を確認するとともに、今年から地域の食材を使った「大国鍋」でイベントに参加すること等を検討しました。

普及所は、ウメやチョロギの施肥・防除について指導するとともに、イベントでの役割分担について、男性組合員も積極的に参加するようアドバイスしました。

今後も普及所は、栽培管理が遅れないよう指導するとともに、組織活動を支援していきます。

## 収穫適期を皆で考えよう！ ～特別栽培米‘吟の夢’現地検討会～



籾の熟れ具合を確認！

9月5日、本山町と土佐町で‘吟の夢’の現地検討会を開催し、生産者9人、土佐酒造職員2人が参加しました。昨年度から地元酒造会社「土佐酒造」の依頼を受けて、2町で酒米‘吟の夢’の特別栽培に取り組んでいます。

普及所から①出穂後の積算温度（日平均気温）から収穫適期の予測、②収穫後の乾燥作業の注意点を説明した後、全ほ場を回って収穫時期を検討しました。

生産者からは「積算温度から収穫適期を判断することは参考になる」、「酒米は割れやすいので主食用米より時間をかけて乾燥させることが重要である」との意見が聞かれました。

今後、普及所では地元メーカーの意向に即した栽培方法等（栽植密度、施肥量）を検討していきます。

## ユリ生産技術向上に向け、産地交流会を実施



栽培状況について情報交換

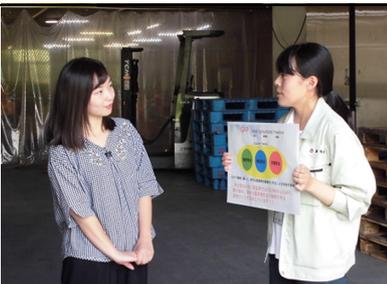
9月6日、管内の花き生産組織「土佐れいほく Confidence Flower（3戸）」は、JA土佐あき花卉部会、土佐市花卉農協と交流会を開催し、農家11人が参加しました。

10年程前から産地のレベルアップにつなげるため、交流会を開催しており、主力品目であるオリエンタル系ユリを中心に情報交換を行い、普及所では栽培技術の助言を行いました。

農家からは「出荷時期は産地で異なるが、情報交換することで毎回新たな発見がある」等の声がありました。

普及所では、今後も組織活動や、各農家の生産安定に向けて支援します。

## TV番組でJA土佐れいほく園芸部での「GAP」の取組を紹介



GAPについて説明中

8月31日、JA土佐れいほく園芸部は本年度から園芸部で実践している「GAP」や「れいほく米ナスフェア」の取組を紹介するため、土佐町の米ナスほ場と出荷場でTV番組の取材を受けました。

普及所は、JA土佐れいほく園芸部がGAPに取り組むことで、各生産者が「環境保全」、「食品安全」、「労働安全」を意識して、健康的に安全な農産物を生産する産地を目指していることを紹介しました。

今後、普及所は園芸部役員やJAと協力しながら、環境点検や広報誌「GAP通信」を通じてGAPの取組を向上させていきます。

嶺北地域農業の発展に向け振興計画を作成しています  
～平成30年度版嶺北地域農業振興計画作成のための第3回チーム会開催～



目指すべき経営体の姿について話し合っています

9月12日、普及所、町村、JA等で組織する「嶺北地域農林業振興連絡協議会農業部会」は「嶺北地域農業振興計画」を作成するために、普及所でチーム会を開催しました。

今回のチーム会では、嶺北地域の農業を牽引する「基幹的担い手」と地域の農業を支える「多様な担い手」を確保・育成するため、目指すべき経営体の姿等を話し合いました。

今後、品目別の課題、問題点を整理して取組方向を検討し、「振興計画」に盛り込んでいくことになりました。今年度内に農業部会で「振興計画」を策定し、3年後の嶺北地域農業の発展を目指します。

大豊とまとのメンバーがヘタ落ちの少ないミニトマトの新品種を確認



新品種について熱心に話を聞く「大豊とまと」のメンバー

9月6日、大豊町の有機栽培トマト農家を中心に組織された「大豊とまと」のメンバー7人は、大豊町のほ場でJA土佐れいほくミニトマト部会が導入したミニトマトの新品種の栽培状況を確認しました。

「大豊とまと」が栽培している品種は、ヘタが落ちやすく主枝が伸びやすいという欠点があります。しかし新品種は、ヘタが落ちにくく節間が短いことから、普及所では「大豊とまと」のメンバーに新品種を確認するよう働きかけました。

新品種についてメンバーからは「果実にはつやがあり、ヘタはひっぱっても落ちない」「つる下ろしの労力が省け、収穫作業に専念できる」「作り方次第で、さらに味を良くすることができる」といった声が聞かれました。

今後普及所では、新品種の導入拡大に向けて支援していきます。

不明確なことが明確になった！ ～第3回はちきん農業大学嶺北地域講座～



活発に質問する受講生

9月11日、普及所職員2人が講師となって、第3回はちきん農業大学嶺北地域講座を普及所で開催し、女性農業者3人が参加しました。

農業施策として「日本型直接支払制度」を説明し、女性農業者から「私達が農作業や草刈りをやってきたことが、国土の保全につながっているんやね」「夫が取り組んでことは知っていたが、初めて何をしているか解った」「他の補助事業を知りたい」などの意見が聞かれました。

また、農業基礎として「野菜の生理障害」を説明し、女性農業者から「こんな症状を見たことはある。どうしてなるかが解った」「鱗片の厚い使い難いタマネギを薄くするにはどうしたらよいか」などの活発な意見や質問がありました。

普及所は、受講者の要望を聞いて講座を増やすなど、女性農業者のスキルアップを目指して支援していきます。

## (株)れいほく未来の若手職員へのアドバイス～米ナス部会の現地検討会～



樹の状況を見ながら  
アドバイス

9月3日、JA土佐れいほく米ナス部会は、土佐町にある(株)れいほく未来の米ナス栽培ほ場で現地検討会を開催し、8人が参加しました。

今回の現地検討会では、若手生産者の栽培技術向上を目的に、ベテラン農家から様々なアドバイスがもらえる場を設定しました。

(株)れいほく未来の若手職員からは、「草勢を維持するために、盛夏期は過度な摘葉をしないことが理解できた。作業の段取りがつきやすくなり、楽になった」といった声が聞かれました。

普及所は今後も、JA土佐れいほく米ナス部会と連携し、若手生産者の栽培技術向上を支援します。

## ユズ優良系統への更新に向けて ～接ぎ木技術の現地研修～



接ぎ木を実演

8月31日、土佐町相川のユズ園地で接ぎ木技術の現地研修を行いました。参加者はJA土佐れいほく園芸部柚子部会員の8人。

嶺北地域では県の果樹試験場が育成した弱毒ウイルスを保有した短棘系統への更新を進めており、今回はその一環として研修を行ったものです。

まず、普及所から研修目的や穂木の入手方法、具体的な接ぎ木の手順などを説明し、その後、篤農家2人が講師になって実演と参加者の実技指導を行いました。「切れるナイフで一気に切ること」「形成層さえ合わせれば台木が太くても接げる」など、みんなで教え合いながらの研修でしたので、参加者全員が理解できました。

次年度からは優良系統の穂木を必要量供給できるようになるため、こうした研修を継続し、早期更新を図りたいと考えています。

## 農福連携～障害者の力を借りて最高の干し芋を～



事業所職員と生産者がサツマイモの状況を見ながら打合せ

土佐町溜井の生産者は水田転換作物としてサツマイモ「べにはるか」を80a栽培し、干し芋に加工しています。10月中旬から機械でサツマイモを掘り起こし、蔓と根を切ってコンテナに入れて貯蔵します。

8月22日、サツマイモの収穫作業を障害者が受託できるよう、普及所は管内にある3つの就労継続支援B型事業所等で組織する「れいほく障害者自立支援協議会」の就労支援部会と、生産者との打ち合わせをコーディネートしました。

生産者からは「降霜前には作業を終わらせる必要があるが、作業員の確保が困難だった。障害者のモチベーションを高めるよう、労賃だけでなく、おやつも用意したい」といった声が聞かれ、障害者の雇用に期待をよせていました。

普及所は、農福連携の取組が成功するよう支援していきます。